

蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成23年4月14日発行

第 3 号

発行人 校長 鈴木史良

学校経営の基盤

— 子ども、保護者、地域から信頼される学校をめざして —

海外の日本人学校でいちばん大切なことは、学校が子どもたちや保護者、日本人会及び邦人コミュニティーから、いかに信頼されるかということでした。異文化の中にある日本人学校は在外邦人にとって日本を象徴するような存在ですから、政府機関や関係者の期待に応えられる学校づくりが必要です。また授業料を徴収して学校運営していますので、学校が授業料に見合う教育を子どもたちに提供できているかどうかという視点も重要でした。同様に、日本国内の学校においても地域に根ざし、地域の皆様に信頼されるあ学校づくり

を進めていくことは最重要課題だと考えています。

<信頼される学校づくりー7つのポイントー>

「信頼される学校」をめざすため、以下7つのポイントを挙げてみました。

(1) 子どもの健康と安全の確保

- ・通学上の安全、校内施設の安全、外部侵入者に対する安全、自然災害に対する安全
- ・健康管理、疾病及び感染症予防指導と発生時の対応、適度な運動指導、心の教育、特別支援、カウンセリング

(2) 子どもの学習環境の確保

- ・学習空間(教室、特別教室)の整備、教具、副教材の充実、学びを大切にす雰囲気づくり、きれいな学校づくり(清掃が行き届いた校舎、緑のある校庭、見やすい掲示物、整頓された靴箱、机・椅子、清潔なトイレ)



4月7日に行われた避難訓練

(3) 新学習指導要領に準拠した子どもの学ぶ力、知・徳・体の育成

- ・新学習指導要領(24年度から導入)を踏まえ、小規模校としてのメリットを活用する
- ・教師の授業力の向上、授業改善に関する職員研修の充実(教師のチーム力を高める)
- ・温かい人間関係の構築と集団指導(自他のよさの気づきと認め合い・友とつながり合うことの喜び・人のために役立つとういう有用感と自己実現)

(4) 深良中独自の特色ある教育の創造

- ・郷土の価値ある歴史を知る
- ・郷土に尽くした人々の人物像を調べ、その考え方、生き方を学ぶ

(5) 開かれた学校づくりと積極的な情報発信

- ・日常からの学校公開、一日授業参観

- ・学校ホームページ、学校だより及び各学級便りの充実
- ・各種学校行事の公開を推進

(6) ねらいをもった教育活動の遂行と組織的なクオリティーコントロール

- ・組織を生かした目標の遂行並びに管理(データに基づき、目標値を立て、実行計画を遂行していく。)
- ・組織マネジメント、学校自己評価システム(PDCAサイクルの導入)、アクションプランの公表と実践

(7) 教職員の服務規律の遵守と職責の遂行

- ・教育の専門家としての姿勢、不祥事を絶対に起こさない心構え
- ・子どもや保護者への親身な対応
- ・学校事故に対する迅速で的確な判断と対応

以上、「信頼される学校」づくりを推進するために、本校の教職員一同、誠心誠意努力していきますので、皆様のご理解、ご支援をよろしくお願いいたします。

生徒会入会式で見た上級生の力

4月13日(水)の午後、生徒会入会式が体育館で行われました。生徒会本部役員が進行を担当し、本部から生徒会の意義や活動内容説明、専門委員長による各委員会活動(学年・放送・奉仕・購買・保健・美化・給食・図書)の説明がありました。新入生の前で、堂々としたたいへん立派な発表ばかりでした。新入生の聞く態度もすばらしかったです。

その後、総合部も含め各部活動がユニフォーム姿になり模範演技を示す等、部活動紹介が行われました。すばやいドリブルやシュート、ラケットから打ち出される鋭いスマッシュ、強烈なアタックや粘り強いレシーブ、ホームをねらった果敢なスライディングなどなど、どれをとっても上級生としての思いがプレーに表れており、新入生の目には、<あこがれ>として映ったことでしょう。15日は部活見学、来週は移動仮入部が始まります。

これから中体連に向けて大切な試合が数多くあるかと思えます。試合には勝った、負けたがあるのは当然ですが、試合以外の場で「他校には絶対に負けない！」

というものを各部で発揮してくれたらうれしく思います。例えば、あいさつの声の大きさでは絶対負けない、「集合」の素早さでは絶対負けない、シューズの整頓の美しさでは絶対負けないなど、1つでいいと思います。それをいつも徹底していけば、不思議に試合でも成果が表れるようになります。始業式で話した<内面的な強さ>になるのです。たとえ試合では負けたとしても、〇〇では深良中がいちばんだったと胸を張れるようなことを各部に期待します。



部活動紹介で活躍する上級生



新入生代表、荻野さんの言葉